



## 利益はどこにあるのか

おきなわ F B 短信 (10)  
(1分間で読めます。)

平成 21 年 2 月 27 日 (金)

これも琉球大学での「観光業界の経営分析」からの話である。

「企業理念や企業哲学の先に利益がある」という宮城さんの表現はとてもいいと思った。授業の中で“長寿企業の秘訣は何か？”と問うた時のレポートの回答である。長寿企業の多くは継続的な発展を遂げつつも、必要以上の利益の追求を控える傾向が見られるという。市場は無限ではなく規模の拡大のみを追求することは、商品やサービスの質の低下やスキルの劣化を招く危険性があるからだと思うという。グローバル化の波の中でも質の良い商品づくりに重点を置く企業はそれ自身倫理性が高い。営利を超えた哲学や精神を持つことが、長期的な目で見れば利益につながる。短期的利益のみを求める姿勢ではなく、企業理念や企業哲学を持った経営活動の先に利益が存在するといった視点から彼女は回答している。

観光地としての競争力は、他の商品とそれほど違ったものではないように思う。他に比較できない、観光資源の優位性が先ず必要であり、沖縄はその優位性のある観光資源を持っている。

その上で、魅力ある観光地を形成して、持続的に利益を上げ続けるには、観光客のニーズを充足し、観光としての一般的な魅力も必要になる。

一般的に他との競争上必要なものとは、“利便性”であり、“リーズナブルな価格”であり、“ホスピタリティ”である。

観光対象(資源)が素晴らしく、この三つの要点での優位性の確保のための努力をする。観光客にとっては、観光地へのアクセスが容易で、時間的に効率よく行動でき、安価で、情報入手や現地でのきめ細かな対応が受けられるならば、それは魅力的な観光地となる。しかし、その根底に企業理念が存在しなければならぬ。

企業には、地域の持っている観光資源を大切にして、その価値を持続させる企業理念や企業哲学が必要なのである。